人、音楽、自然——日本フィルのテーマです。

JAPAN PHILHARMONIC ORCHESTRA

創立指揮者 渡邊曉雄

JAPAN PHILHARMONIC ORCHESTRA

SUBSCRIPTION CONCERTS

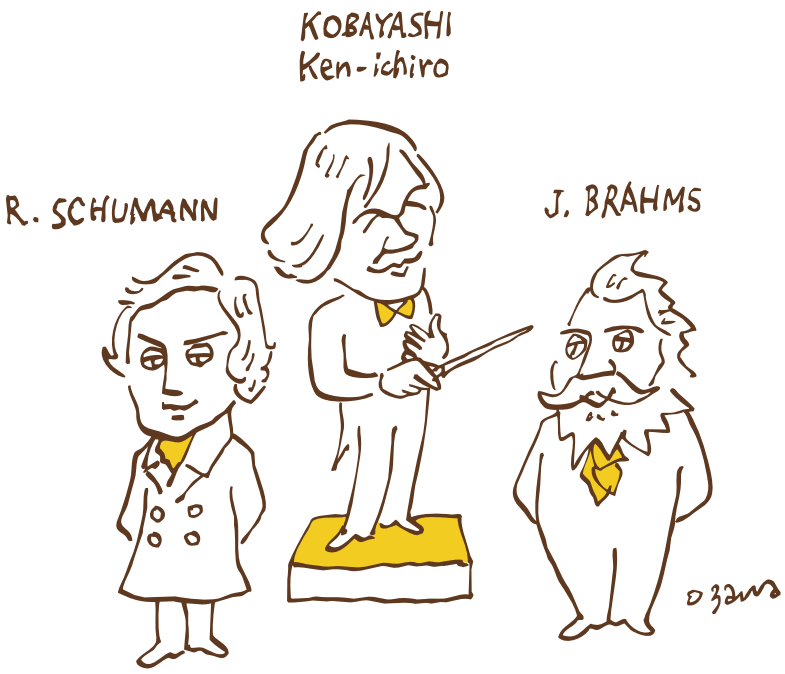
2022

4

APR

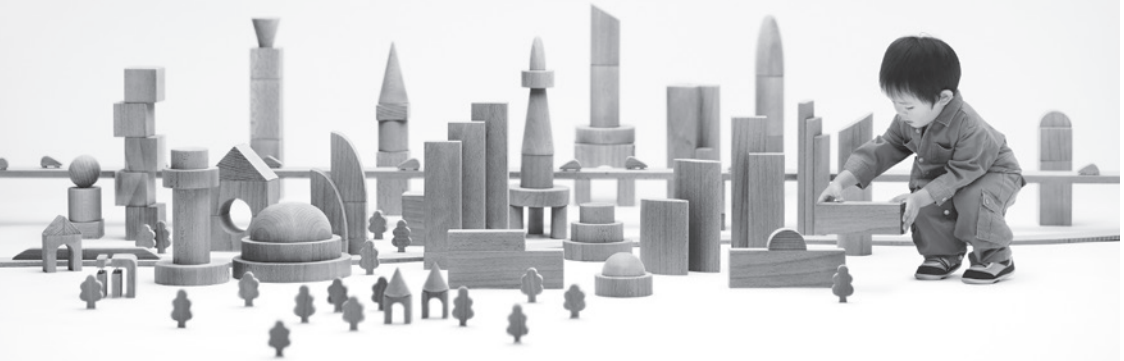
第739回
東京定期演奏会

サントリーホール
2022年4月1日(金)19:00
4月2日(土)14:00



日本フィルハーモニー交響楽団

想像を、チカラに。



人が想像できることは、必ず人が実現できる。
鹿島の都市づくりは、100年先を見つめています。

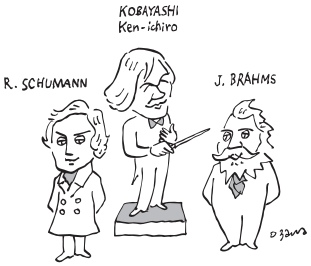
100年をつくる会社
鹿島

CONTENTS
目 次

◆ プログラム 4
◆ 出演者プロフィール 6
◆ プログラム・ノート- 齋藤 弘美 - 7
◆ 写真プレイバック- 2022年2月3月 - 10
◆ 感動の共有　～ご支援のお願い～ 15
◆ 日本フィルハーモニー交響楽団　特別会員ご芳名 16
◆ パトロネージュご芳名 20
◆ 日本フィルハーモニー協会　維持会員ご芳名 22
◆ Member's TVU CHANNEL 配信一覧 23
◆ 次回東京定期演奏会指揮者インタビュー 24
◆ インフォメーション 26
◆ 公益財団法人 日本フィルハーモニー交響楽団　名簿 27

JAPAN PHILHARMONIC ORCHESTRA 739th SUBSCRIPTION CONCERTS

日本フィルハーモニー交響楽団
第739回 東京定期演奏会



サントリーホール Suntory Hall

2022年4月1日(金)午後7時開演／2日(土)午後2時開演

7:00p.m. April 1st (Fri.) & 2:00p.m. 2nd (Sat.), 2022

主　　催／公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団

協　　賛／鹿島建設株式会社　三井不動産株式会社

助成：文化庁文化芸術振興費補助金（舞台芸術創造活動活性化事業）独立行政法人 日本芸術文化振興会

衣装提供／株式会社カインドウェア

表紙イラスト／小澤 一雄

感染防止策にご協力をお願いいたします。

- ●スタッフは不織布マスクを正しく着用します。また、小声で対応させていただきます。
- ●入場時の手指消毒、手洗い、検温をお願いいたします。
- ●ホール内ではマスク（不織布など効果の確かなもの）を正しく着用し、周囲のお客様への配慮をお願いいたします。
- ●開演前はなるべくお席でお過ごしください。また時差退場のご協力をお願いいたします。
- ●会場ロビーでの食事はお控えください。（ホール内は飲食禁止です）
- ●ブラボー等の掛け声はお控えください。ホール内では大声での会話を避けるようご協力をお願いいたします。
- ●出演者へのプレゼント（お手紙・お花などを含む）、面会、楽屋入待ち、出待ち等はご遠慮ください。
- ●チケットご購入者と演奏会ご来場者のお名前が異なる場合は、ご来場者のご住所、お名前、電話番号を弊団までお知らせください。
- ●万が一感染者が発生した場合など、必要に応じて保健所等の公的機関へお客様のお名前と連絡先を提供する可能性がございます。
- ● 新型コロナウイルス接触アプリ（COCOA）等通知アプリの利用をお勧めいたします。

＊この演奏会では、目の不自由なお客様のために点字プログラムを用意しております。ご要望の方は主催者までお申し出ください。

シューマン：交響曲第4番 ニ短調 op.120　約28分

Robert SCHUMANN: Symphony No.4 in d-minor, op.120

休憩（20分）Intermission

ブラームス：交響曲第4番 ホ短調 op.98　約39分

Johannes BRAHMS: Symphony No.4 in e-minor, op.98

指揮：小林 研一郎［桂冠名誉指揮者］

Conductor: KOBAYASHI Ken-ichiro, Honorary Conductor Laureate

コンサートマスター：木野 雅之［日本フィル・ソロ・コンサートマスター］

Concertmaster: KINO Masayuki, JPO Solo Concertmaster

ソロ・チェロ：菊地 知也［日本フィル・ソロ・チェロ］

Solo Violoncello: KIKUCHI Tomoya, JPO Solo Violoncello

演奏中のマナーにご協力をお願いいたします。

■ 演奏会をお楽しみいただくために

演奏中はお手持ちの時計のアラーム、または携帯電話などの電源はお切りください。また手荷物、傘、チラシ類などの物音、話し声などで他のお客様のご迷惑にならないようご配慮をお願い申し上げます。尚、録音、録画、写真撮影は固くお断りしております。

■ 電源OFF

■ 声と拍手にご注意を

■ 周囲にご配慮を

■ 音にご注意を

■ 撮影禁止

©山本 倫子

Conductor 指揮

小林 研一郎
［桂冠名誉指揮者］

KOBAYASHI Ken-ichiro, Honorary Conductor Laureate

東京藝術大学作曲科及び指揮科を卒業。第1回ブダペスト国際指揮者コンクールでの鮮烈な優勝を飾ったことを皮切りに世界的に活動の場を拡げ、現在も第一線で活躍を続けている。音楽に対する真摯な姿勢と情熱的な指揮ぶりは「炎のコバケン」の愛称で親しまれ、名実共に日本を代表する指揮者である。

これまでに海外ではハンガリー国立フィルハーモニー管弦楽団、チェコ・フィルハーモニー管弦楽団、ネーデルランド・フィルハーモニー管弦楽団（25年間、常任客演指揮者を務める）、アーネム・フィルハーモニー管弦楽団、ロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団、フランス国立放送フィルハーモニー管弦楽団、ローマ・サンタ・チェチーリア国立管弦楽団、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団、ハンガリー放送交響楽団等、国内では NHK交響楽団、読売日本交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、東京都交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、京都市交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、九州交響楽団等、名立たるオーケストラと共演を重ね、数多くのポジションを歴任。この長年にわたる文化を通じた国際交流や社会貢献によって、ハンガリー政府よりハンガリー国大十字功労勲章（同国で最高位）等、国内では恩賜賞・日本芸術院賞等を受賞。

作曲家としても数多くの作品を書き、1999年に日本・オランダ交流400年記念の委嘱作品、管弦楽曲『パッサカリア』を作曲、ネーデルランド・フィルハーモニー管弦楽団によって初演されると、聴衆から熱狂的な喝采を以て迎えられた。同作品はそれ以降もアシュケナージ指揮NHK交響楽団、小林研一郎指揮日本フィルハーモニー交響楽団等で再演されている。社会貢献を目的とした「コバケンとその仲間たちオーケストラ」では、活動趣旨に賛同するプロ、アマ、学生などのボランティアメンバーと共に全国でチャリティ公演を行っている。

CD、DVDはオクタヴィア・レコードより多数リリース。著書に『指揮者のひとりごと』(騎虎書房/日本図書協会選定図書)等がある。

現在、日本フィルハーモニー交響楽団桂冠名誉指揮者、ハンガリー国立フィルハーモニー管弦楽団・名古屋フィルハーモニー交響楽団・群馬交響楽団桂冠指揮者、読売日本交響楽団特別客演指揮者、九州交響楽団名誉客演指揮者、東京藝術大学・東京音楽大学・リスト音楽院名誉教授、ローム ミュージック ファンデーション評議員等を務める。

オフィシャル・ホームページ
http://www.it-japan.co.jp/kobaken/

プログラム・ノート 解説：齋藤 弘美

ロベルト・シューマン（1810-1856）とヨハネス・ブラームス（1833-1897）はそれぞれ4曲の交響曲を残した。その中の第4番、すなわち“最後の交響曲”を並べて聴けるというのは実際のところなかなかあるようでない。同じ“第4番”でありながら内容も創作状況も異なるのはもちろんだが、曲番以外にその背景や関連性をふまえて聴くことが出来れば、これら二つを並べて演奏することの意味や意義も見えてくる。周知の通りシューマンとブラームスは親交があり、作曲家としても新旧の違いこそあれ互いに認め合う存在だった。交響曲は作曲家にとってはいわば集大成的なもの。それが第４交響曲という共通媒体をぶつけ合うことでどのような“化学反応”を示すのか、それを検証できるのは何よりの関心事であり楽しみとなる。

■ シューマン：交響曲第４番 二短調 op.120

ブラームスは20歳の時シューマン夫妻と対面し歓待されている。彼のピアノ演奏を聴いた二人はブラームスの才能に驚き、シューマンは日記に「ブラームス来訪、天才だ」、妻クララも「神から直接派遣されたような人のひとり」と書き記している。以来シューマン夫妻との親密な交流が始まるのだが、この時すでにシューマンは精神疾患がひどくなりはじめ、ブラームスとの出会いからわずか五ヶ月後ライン河に投身するという不幸な出来事が起こる。シューマンは幸い一命をとりとめたが、療養生活を余儀なくされ、みずからすすんで療養所に入るものの快復かなわず約二年半後に亡くなっている。シューマン存命中の二人の交流はほんのわずかだったものの、この間にシューマンは「新音楽時報」（シューマンが創刊した音楽雑誌で、ショパンをいち早く発見し「諸君、脱帽し給え、天才が現れた」と評したことでも知られる）に「新しき道」という論説でブラームスを紹介し、デビューを促すきっかけを作った。しかしシューマン亡き後、残された妻クララと7人の子供たちを献身的に支えたのはブラームスで、クララとは恋愛関係ともいえる親しい関係を長年にわたり続ける一方、互いに芸術家として認め合い事あるごとに意見を交換し、お互いの芸術活動に無くてはならない信頼関係で結ばれていたことはよく知られている。そんな親密で良好な二人の関係に暗雲が立ち込めた“事件”が起こる。それはシューマンの交響曲第4番の出版をめぐってのこと。シューマン全集が出版される際、ブラームスは1841年の最初の草稿を所有していたが、シューマン自身が1851年に補筆したものよりも芸術的だと考えて、その出版にむけて尽力しクララにも相談していたが、彼女の意向がはっきりしなかったため、ブラームスはシューマン全集の補巻として先に出版してしまった（1891年）。ところがクララは生前にシューマンが出版しなかったのはしかるべき理由があるとしてブラームスを非難し、ブラームスの説明に耳を貸すこともなく、二人の長年の交際を無にしてしまうような劣悪な関係になってしまったのである。その後二人の仲は寄りが戻ったが、この第4番の草稿をめぐっ

ては両者ともにその価値は認めながらも思い入れや立場の違いが浮き彫りにされたのである。

“交響曲を書かないと一流の作曲家として認められない”という強迫観念めいたものがかつてはあった。少なくても19世紀半ばのドイツ・オーストリアではポスト・ベートーヴェンの交響曲を切望する気風があったことは確かだ。それを継承実現できたのはブルックナーとブラームスになるわけだが、それまでには長い年月を要した。シューマンの交響曲はその間を補完することになるが、ベートーヴェンを規範とした交響曲本来の目的意識とは別のところに彼の本意はあったようである。この第４番は順番では最後のものになっているが、着想としては最初のものといわれる。書かれたのは1841年。すなわちシューマンがクララと結婚した翌年で、一気呵成に完成させた第1番の直後にわずか3か月で作曲され、クララの22歳の誕生日プレゼントとして彼女に贈られている。もともとは「交響的幻想曲」という標題がつけられており、４楽章構成による交響曲の体裁は取ってはいるものの、終楽章以外は終止線がなく、各楽章が連続して演奏されるようになっている。さらには各楽章間における関連性や、形式や構造自体にも進歩的な特徴がみられるなど、交響曲の概念をさらに拡大して次なる管弦楽曲の可能性を見据えた新たな楽曲形態を模索していたと考えられる。初演は同じ年の暮れに行われたが不評だったこともあり出版は見送られ、10年後に自ら改作して出版される経緯をたどった。この改作の初演は二年後に作曲者自身の指揮で行われている。なおこの第4番の改作については、マーラーやジョージ・セル、クレンペラーやクーベリック、ロジェストヴェンスキーら大指揮者たちがオーケストレーションの変更を行ったことでも知られている。

各楽章については特徴的なところを簡単に説明しておこう。

第1楽章　かなりおそく（序奏）→いきいきと（主部）ニ短調 3／4拍子

序奏付きのソナタ形式だが、展開部が非常に長く（全体の半分を占める）、再現部が省かれる形を取っている。これはロマン派の作品でも革新的な作法である。

第2楽章　ロマンツェ かなりおそく イ短調 3／4拍子

三部形式。第1楽章の序奏部の音型による楽想が登場する。第1楽章で提示されたテーマ（動機）を行き渡らせることによって全体の統一感を持たせる、ある意味でベートーヴェン的手法のあらわれである。

第3楽章　スケルツォ いきいきと ニ短調 3／4拍子

カノン的に処理された主要主題は旋律的で一度聴いたら忘れられない。第4交響曲のセールスポイントにもなっている楽章である。

第4楽章　おそく（序奏）ニ短調→いきいきと（主部）ニ長調 ４／４拍子

序奏付きのソナタ形式で、主要主題は第1楽章で使われた楽想が用いられている。展開部では第1主題が用いられるため、再現部は第2主題から始まる。コーダでは新たな動機が導入され速度も急速になって終わる。

楽器編成：フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン2、バス・トロンボーン1、ティンパニ、弦楽5部。

■ ブラームス：交響曲第４番 ホ短調 op.98

ブラームスの交響曲第4番は52歳の時に完成した。現在の平均年齢からすれば50代はまだまだ老境とは言い難いが、完成された当初からこの作品については、枯淡とか憂愁、諦観などおよそ人生の終焉を迎えた作曲家の音楽イメージで語られている。ブラームスの身近な友人からも一般には理解されないので発表を見合わせるようにという忠告さえ受けたのは当時の客観的な見解なのだろう。そういえばマーラーは51歳で亡くなったがすでに老境に達したような交響曲を書いていたのだから、肉体的な年齢はあまり関係ないというのが判断を誤らぬ正当な見方ということである。いわば精神的な境地、あるいは心象風景、といったものが強く反映したものがこの第4番には滲み出ているということである。第4番の創作上の特徴として顕著なのは、古い時代の音楽書法や手法を取り入れ前面に出している点で、特に第2楽章には中世・ルネサンスの音楽語法であるフリギア旋法を採用し、また終楽章には若いころから敬愛し親しんできたJ.S.バッハ時代のシャコンヌを厳格に用いるなど、そうした古めかしい手法を駆使しながらも極めて技巧的で先進的な和声や筆法を盛り込むことでより濃密な音楽を練り上げている。結果として晦渋で分かりにくい音楽となってはいるものの、今日ではブラームスが到達した至高の交響曲であるという評価は揺るぎないものになっている。

第1楽章　ホ短調 2／2拍子 ソナタ形式

いきなり開始される第1主題は哀愁を帯びた叙情的旋律でブラームスの寂寥感をそのまま映し出したような風情がある。全体に対位法的手法を愛用しているためか古めかしい印象を与えてしまうが、曲想や曲の流れは情感豊かで円熟した音楽技法と相まって品格の高い音楽となっている。

第2楽章　ホ長調 6／8拍子 ソナタ形式

ソナタ形式であるが展開部にあたる部分がないロマンス風楽曲。調性はホ長調であるがフリギア旋法による主題がものさびしい風情を喚起する。

第3楽章　ハ長調 2／4拍子 ソナタ形式

2拍子のスケルツォで、トライアングルが彩を添える。

第4楽章　ホ短調 3／4拍子 シャコンヌ

シャコンヌの主題はJ.S.バッハのカンタータ第150番《主よ、私は仰ぎのぞむ》の合唱によるシャコンヌ主題との類似点が指摘されている。シャコンヌはパッサカリアと同様の変奏曲で、ブラームスは主題と32の変奏を実施しているが、ソナタ形式を当てはめた提示部、展開部、再現部、コーダという見立ても可能な作りをしている。

楽器編成：フルート2（ピッコロ持替1）、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、コントラ・ファゴット1、ホルン4、トランペット2、トロンボーン2、バス・トロンボーン1、ティンパニ、トライアングル、弦楽5部。

Playback プレイバック

2月3月の公演を振り返ります

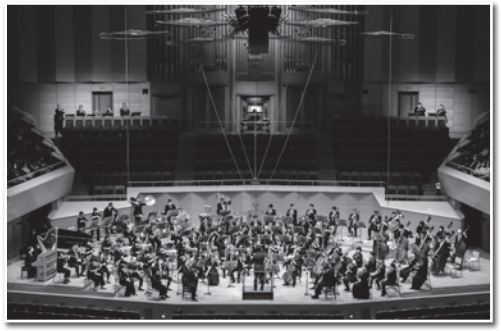


PHOTO 1 2月2日の日本フィル×サントリーホール「とっておきアフタヌーンVol.18」は古典へのあこがれをテーマに、坂入健司郎さん（指揮）、佐藤晴真さん（チェロ）、高橋克典さん（ナビゲーター）とともに数々の名曲をお届けいたしました。写真は、レスピーギの《ローマの松》より。6人のバンダ隊やオルガンも加わり大迫力の演奏をお楽しみいただきました。
（提供：サントリーホール）

PHOTO 2 2月12日～23日は九州公演2022。残念ながら2月11日に予定していた長崎公演はホールの臨時休館に伴い中止となりましたが、ようやく九州公演を開催することができました。指揮者の横山奏さん、永峰大輔さん、ヴァイオリンの神尾真由子さん、ピアノの上原彩子さんとともに無事完走！また来年！

PHOTO 3 3月東京定期は、フレンド・オブ・JPO（芸術顧問）の広上淳一さんの就任披露演奏会。プレトークも両日ともマエストロにお話しいただきました。絢爛豪華なラヴェルとマエストロ得意のラフマニノフによる壮大な音絵巻をお楽しみいただきました。*

*印は有料アーカイブ配信中！
アーカイブ配信はMember's TVU CHANNELで。
https://members.tvuch.com

日本フィルハーモニー交響楽団 東北の夢プロジェクト

岩手県宮古市を訪問！

東日本大震災の発生直後から継続している支援活動の一環として、昨年12月18日に、甚大な津波被害を受けた宮古市を訪問しました。

市内の中学・高校の吹奏楽部との交流プログラムでは、各校の演奏を聴くだけではなく感想を伝えあう時間をもったことで、相互にコミュニケーションを図ることができ、日本フィルのメンバーからのアドバイスをすぐにでも演奏に活かそうと、真剣に耳を傾ける生徒たちのキラキラした目が印象的でした。

一方、社会福祉協議会でのコンサートでは、クラシックを中心とした1時間のプログラムに80名以上の方がご来場くださいました。終演後には「久しぶりに生の音楽を聴けて本当に楽しかった」と声をかけてくださる方もいて、楽員にとっても励みになったようです。

大都市に比べて文化芸術に触れる機会の少ない地域では、新型コロナの影響も相まって、特に高齢者の社会参加の機会が減っているとのこと。社会とのつながりを途切れさせないために、そして何年経っても消えることのない心の傷を少しでも和らげる手助けにつながると信じて、我々はこの活動を続けていきます。

メンバーがジュニア・アンサンブルをサポート

中学生も息の合った演奏を披露

アドバイスを受ける高校生たち

日常から少し離れ、音楽に耳を傾けて…

全国保証株式会社
for your dream and happiness

私たちは日本フィル「東北の夢プロジェクト」を応援しています。

全国保証株式会社は1981年に設立された、住宅ローン保証を中核とした信用保証事業を全国で展開する国内最大手の独立系保証会社です。
全国各地の金融機関と連携し、多くのお客様のニーズや要望に応えています。
https://www.zenkoku.co.jp

あれもこれも、で
いい街にしよう。

たとえば、伝統と革新。都市と自然。
経済と文化。住む人と働く人。
あれかこれか、ではなく、あれもこれも。
私たち三井不動産は、
異なる概念やさまざまな人を結びつけて、
イノベーションや挑戦、
驚きや希望や愛といった、
新しい価値を次々と街に生み出していきたい。
そして街に集う人たちと一緒に、
その先の日常をつくっていきたい。
街は人とともに。
三井不動産の「&」の街づくりは続きます。

三井不動産
MITSUI FUDOSAN

最高級のアコースティックを誇る

杉並公会堂
Suginami Koukaidou

日本フィルは杉並公会堂を活動拠点とし、
様々な活動を通じて音楽文化を発信しています。

日本フィル杉並公会堂
シリーズ公演より

春休みオーケストラ探検より
楽器体験

公開リハーサル

〒167-0043 東京都杉並区上荻1-23-15
Tel: 03-3220-0401
http://www.suginamikoukaidou.com/
※運営会社：(株)京王設備サービス

コロナ禍の日本フィルを支えてくださった皆様に、心より御礼申し上げます

新型コロナウイルス感染症の嵐が止まないまま、はや2年の月日が経とうとしています。

この間、皆さまから絶えず励ましのお言葉と厚いお力添えを頂戴いたしましたことに、心より御礼申し上げます。不安定な状況が続く中でも多くの皆様に演奏会へお越し頂いておりますことが、日々の活動の励みとなっております。

日本フィルは2020年2月末、突然の公演自粛要請からおよそ4か月間一切の活動を停止し、活動再開以降も感染拡大防止対策などの影響が続いた結果、2020年度だけで70公演が中止となり、一時は約6億円の収入が失われ、年間収支は4億円近い赤字見込みとなりました。給与カット等の自助努力だけでは回復には遠く及ばず、「存続の危機」といえる状態に追い込まれ、皆様に事業継続のためのご支援のお願いを続けてまいりました。

この間、可能な限り演奏会を実施しながら、国の補助金・助成金獲得に努め、杉並区等の自治体からの支援、稲盛財団をはじめとする民間財団の助成、金融機関のご支援もいただきました。何より大きな力となりましたのが、全国の皆様から頂戴したご寄付です。その額は一億円を超えるものとなり、「何としても存続してほしい」という強いメッセージとともに日本フィルを力強く支えてくださいました。涙が出るほどにありがたく、改めて衷心より御礼申し上げます。

こうしたご支援のお陰を持ちまして、2020年度決算は奇跡的に赤字を回避することができました。これで一見存続の危機を脱したようにも見えますが、しかし変異株の拡大などコロナ禍の収束については不透明な状況であり、完全な形での活動には未だ戻れない中、演奏収入を主たる財源とする日本フィルにとっては2021年度も厳しい状況が続いております。

日本フィルは皆様からのお力を糧に、芸術性と社会性を兼ね備えた音楽団体として、新しい時代の社会の要請にしっかりと応えられるよう、自らの変革を行っていく所存でございます。どうか引き続き皆様には温かくお見守りいただくとともに、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

日本フィルハーモニー交響楽団
理事長　平井 俊邦

■お振込みでのご寄付

①お名前 ②ご住所 ③TEL ④お振込額　を
メール donation@japanphil.or.jp まで
お知らせください。

【お振込先口座】
三菱UFJ銀行　高円寺支店（支店コード：155）
普通預金　0242402
公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団

※振込手数料はご負担くださいますようお願い申し上げます。

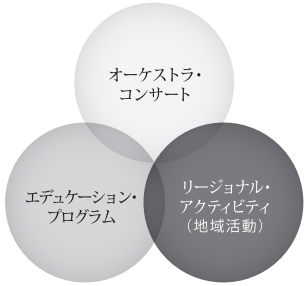
■クラウドファンディング

4月1日～5月31日迄実施いたします。
パソコンからは 未来ショッピング 検索 で、
スマホからは
右のQRコードからご覧いただけ、
クレジットカードにより
ご寄付いただけます。
数々の返礼品をご用意しております。

感動の共有
日本フィルハーモニー交響楽団

文化の発信

日本フィルは、
質の高い音楽をお届けする《オーケストラ・コンサート》
音楽との出会いを広げる《エデュケーション・プログラム》
そして音楽の力で様々なコミュニティを活性化させる
《リージョナル・アクティビティ》という
三つの柱で活動を行い、
音楽を通して文化を発信しています。



存続の危機にある日本フィルへのご寄付

税額控除または所得控除の対象となります。詳しくは左のページをご覧ください。

パトロネージュ［個人寄付会員］

プログラム誌へのご芳名掲載や様々な特典があります。税額控除または所得控除の対象となります。
年会費：3万円／5万円／12万円／20万円／50万円／100万円

日本フィル・サポーターズクラブ

音楽に関心を持つ皆様に日本フィルの活動をご支援いただくシステムです。ご招待券2枚プレゼント、
主催公演チケット優先受付・優待（1割引）など様々な特典があります。
年会費：1万円

特別会員［法人寄付］

定期演奏会のご案内、プログラム誌へのご芳名の掲載などの特典があります。寄付金額を損金に算入することができます。

遺贈

遺言により財産をご寄付頂く方法です。税制上の優遇措置の対象となります。お申込みの方法など、提携銀行のご紹介など、詳しくは事務所までご相談ください。

お問い合わせ：日本フィル事務所　TEL03-5378-6311（10-18時、土日祝日休）

日本フィルハーモニー交響楽団 特別会員ご芳名

株式会社IDホールディングス
代表取締役社長 舩越 真樹
株式会社アイレ 代表取締役社長 荒江 健
アイング株式会社 代表取締役会長 飯嶋 庸夫
赤坂維新號 代表取締役社長 鄭 東静
アサヒグループホールディングス株式会社
代表取締役社長兼CEO 小路 明善
あすか製薬株式会社 代表取締役社長 山口 惣大
株式会社アトックス 代表取締役 矢口 敏和
株式会社アドービジネスコンサルタント
代表取締役社長 池田 昭司
株式会社アール&キャリア
代表取締役社長 飯嶋 一晃
イーソリューションズ株式会社
代表取締役社長 佐々木経世
株式会社泉商会 代表取締役社長 八方 淑夫
株式会社泉放送制作 代表取締役社長 日下部恵一
磯野不動産株式会社 代表取締役社長 磯野 計一
稲畑産業株式会社 相談役 稲畑 勝雄
株式会社インフォマート 代表取締役社長 長尾 收
株式会社内田洋行 代表取締役社長 大久保 昇
内野株式会社 代表取締役社長 内野 信行
宇部エクシモ株式会社 代表取締役社長 髙橋 俊充
宇部興産株式会社 取締役会長 山本 謙
株式会社ＡＩＴ 代表取締役社長 大熊 克美
株式会社エイブル＆パートナーズ
代表取締役会長兼社長 佐藤 茂
株式会社エヌエフホールディングス
代表取締役会長 高橋 常夫
NGB株式会社 代表取締役社長 宮﨑 潔
エヌビーエス株式会社 代表取締役会長 飯嶋 一晃
株式会社エルイーテック 代表取締役社長 坂田 洋一
エレコム株式会社 代表取締役会長 葉田 順治

大隅ミート産業株式会社 代表取締役社長 小森 浩一
株式会社大場造園 代表取締役社長 大場 二郎
株式会社岡三証券グループ 取締役会長 加藤 哲夫
小川香料株式会社 代表取締役社長 小川 裕
公益財団法人オリックス宮内財団
代表理事 宮内 義彦
花王株式会社 代表取締役 社長執行役員 長谷部佳宏
株式会社カカクコム 代表取締役社長 畑 彰之介
鹿島建設株式会社 代表取締役会長 押味 至一
鹿島建物総合管理株式会社
代表取締役社長 山本 和雄
鹿島道路株式会社 代表取締役社長 吉弘 英光
かどや製油株式会社 代表取締役会長 小澤 二郎
株式会社カナック企画 代表取締役 金子高一郎
株式会社ガモウ 代表取締役 蒲生 茂
社会医療法人河北医療財団 理事長 河北 博文
川北電気工業株式会社 取締役社長 大津 正己
北野建設株式会社 代表取締役社長 北野 貴裕
キッコーマン株式会社
取締役名誉会長取締役会議長 茂木友三郎
キヤノン株式会社
代表取締役会長 兼 社長 CEO 御手洗冨士夫
キユーピー株式会社
代表取締役 社長執行役員 長南 収
協和キリン株式会社 代表取締役社長 宮本 昌志
株式会社協和日成 代表取締役社長 川野 茂
キリンホールディングス株式会社
代表取締役社長 磯崎 功典
株式会社きんでん 代表取締役社長 上坂 隆勇
株式会社九曜社 代表取締役社長 望月 耕次
グリーン・サポート・システムズ株式会社
代表取締役 笛木 彰
グローブシップ株式会社 代表取締役社長 矢口 敏和

株式会社京王設備サービス 取締役社長 浅野 義行
京王電鉄株式会社 代表取締役社長 紅村 康
京浜急行電鉄株式会社 取締役社長 原田 一之
株式会社小泉 代表取締役社長 長坂 剛
株式会社興建社 代表取締役社長 水島 隆明
コーザイ株式会社 代表取締役 貝沼 信和
株式会社講談社 代表取締役社長 野間 省伸
株式会社コバヤシ 代表取締役 小林 達夫
コンパッソ税理士法人 代表社員 内川 清雄
株式会社コトブキ 代表取締役社長 深澤 幸郎
株式会社コンサートサービス 代表取締役 佐藤 修悦
佐藤製薬株式会社 代表取締役社長 佐藤 誠一
三機工業株式会社 特別顧問 梶浦 卓一
山九株式会社 代表取締役社長 中村 公大
サントリーホールディングス株式会社
代表取締役社長 新浪 剛史
三洋貿易株式会社 代表取締役社長 新谷 正伸
ジーエルサイエンス株式会社 取締役社長 長見 善博
ジェネロ株式会社 代表取締役 竹内 大志
株式会社慈恵実業 代表取締役社長 石塚 雄三
澁谷工業株式会社 取締役社長 澁谷 英利
株式会社じほう 代表取締役会長 武田正一郎
清水建設株式会社 代表取締役社長 井上 和幸
株式会社集英社 代表取締役社長 廣野 眞一
松竹株式会社 代表取締役社長 迫本 淳一
昭和電工ガスプロダクツ株式会社
代表取締役社長 平倉 一夫
昭和電工株式会社 代表取締役会長 森川 宏平
ショーボンドホールディングス株式会社
代表取締役社長 岸本 達也
新菱冷熱工業株式会社 代表取締役社長 加賀美 猛
株式会社ジャックス 代表取締役社長COO 山﨑 徹

株式会社ジンテック 代表取締役 柳 秀樹
株式会社杉江商店 代表取締役 杉江 寛
杉山商事株式会社 取締役社長 杉山 健
住友ベークライト株式会社 代表取締役社長 藤原 一彦
株式会社スプリックス 代表取締役社長 常石 博之
株式会社西武ホールディングス
代表取締役社長 後藤 高志
全国保証株式会社 代表取締役社長 石川 英治
第一倉庫株式会社 会長 小泉 駿一
株式会社泰秀 代表取締役社長 野口 通子
大正製薬株式会社 取締役会長 上原 明
大成建設株式会社 代表取締役社 相川 善郎
大成ロテック株式会社 代表取締役社長 西田 義則
大同生命保険株式会社 代表取締役社長 北原 睦朗
大日本除虫菊株式会社 代表取締役社長 上山 直英
大日本塗料株式会社 代表取締役社長 里 隆幸
大和製罐株式会社 代表取締役社長 山口 裕久
高砂熱学工業株式会社
代表取締役社長COO 社長執行役員 小島 和人
千歳コーポレーション株式会社
取締役社長 森岡 寛司
千代田化工建設株式会社 代表取締役社長 山東 理二
株式会社千代田テクノル 代表取締役会長 細田 敏和
塚本總業株式会社 代表取締役社長 塚本 素清
ディアンドデパートメント株式会社
代表取締役社長 松添みつこ
株式会社ティーガイア 代表取締役社長 金治 伸隆
学校法人帝京大学 理事長 冲永 佳史
THK株式会社 代表取締役社長 寺町 彰博
ＴＩＳ株式会社 代表取締役社長 岡本 安史
株式会社電通 代表取締役 社長執行役員 榑谷 典洋
東亜建設工業株式会社 代表取締役社長 秋山 優樹
株式会社東急コミュニティー 取締役社長 雑賀 克英

東京海上日動火災保険株式会社
取締役社長 広瀬　伸一
東急株式会社 代表取締役社長 髙橋　和夫
株式会社東京交通会館 代表取締役社長 興野　敦郎
東京都杉並区 区長 田中　良
東京美装興業株式会社 代表取締役社長 八木　秀記
株式会社東北新社 代表取締役社長 中島　信也
東洋熱工業株式会社 代表取締役社長 谷口　昌伸
戸田建設株式会社 代表取締役会長 今井　雅則
トヨタ自動車株式会社 代表取締役社長 豊田　章男
株式会社永田音響設計 代表取締役社長 小口　恵司
株式会社永谷園ホールディングス
代表取締役会長 永谷栄一郎
株式会社ナミキ 代表取締役会長兼社長 並木　洋一
日総工産株式会社
代表取締役社長執行役員 兼 CEO 清水　竜一
日鉄興和不動産株式会社 代表取締役社長 今泉　泰彦
株式会社ニフコ 代表取締役社長 兼 COO 柴尾　雅春
日本精工株式会社 取締役会長 内山　俊弘
日本製鉄株式会社 代表取締役社長 橋本　英二
日本電子株式会社 代表取締役会長 兼 CEO 栗原権右衛門
日本パーカライジング株式会社
株式会社日本マイクロニクス
代表取締役社長 長谷川正義
株式会社ネイチャーズウェイ
代表取締役社長 萩原　吉晃
根本特殊化学株式会社 代表取締役社長 根本美恵子
野村ホールディングス株式会社
代表執行役社長 グループCEO 奥田健太郎
パイオニア株式会社
代表取締役兼社長執行役員 矢原　史朗
ハウス食品グループ本社株式会社
代表取締役社長 浦上　博史

株式会社博報堂 代表取締役社長 水島　正幸
ハナマルキ株式会社 代表取締役社長 花岡　俊夫
パンパシフィック・カッパー株式会社
代表取締役社長 堀　一浩
阪和興業株式会社 代表取締役社長 古川　弘成
東日本住宅株式会社 代表取締役 桃野　直樹
非破壊検査株式会社 代表取締役社長 山口多賀幸
ひびき・パース・アドバイザーズ
代表取締役社長 清水　雄也
富国生命保険相互会社 代表取締役社長 米山　好映
富士急行株式会社 代表取締役社長 堀内光一郎
富士テレコム株式会社 代表取締役社長 西田　孝一
一般財団法人 藤本育英財団 理事長 藤本由紀子
双葉電子工業株式会社 代表取締役社長 有馬　資明
古河産業株式会社 代表取締役社長 横田　敦彦
合同会社ベルファーマシー 代表社員 前島　景子
株式会社ポーラ・オルビスホールディングス
ホッカンホールディングス株式会社
代表取締役社長 池田　孝資
株式会社ポニーキャニオン
代表取締役社長 吉村　隆
本田技研工業株式会社 代表取締役社長 三部　敏宏
株式会社牧野フライス製作所
代表取締役社長 井上　真一
マネックスグループ株式会社
代表執行役 松本　大
株式会社丸井グループ 代表取締役社長 青井　浩
株式会社丸の内よろず 取締役社長 中村　正博
丸美屋食品工業株式会社 代表取締役社長 阿部豊太郎
三井情報株式会社 代表取締役社長執行役員 浅野　謙吾
株式会社三井住友銀行 頭取CEO 髙島　誠
三井製糖株式会社 代表取締役社長 森本　卓
三井石油開発株式会社
三井倉庫ホールディングス株式会社
代表取締役社長 古賀　博文

三井物産株式会社 代表取締役社長 堀　健一
三井不動産株式会社 代表取締役社長 菰田　正信
株式会社三越伊勢丹アイムファシリティーズ
代表取締役会長 飯嶋　庸夫
株式会社三越伊勢丹ホールディングス
特別顧問 石塚　邦雄
三菱HCキャピタル株式会社
代表取締役 社長執行役員 柳井　隆博
三菱オートリース株式会社
代表取締役社長 中野　智
三菱ガス化学株式会社 代表取締役社長 藤井　政志
三菱地所株式会社 執行役社長 吉田　淳一
三菱自動車工業株式会社
取締役代表執行役CEO 加藤　隆雄
三菱重工業株式会社 取締役社長 泉澤　清次
三菱倉庫株式会社 相談役 宮崎　毅
株式会社三菱UFJ銀行 頭取 半沢　淳一
三菱UFJ証券ホールディングス株式会社
取締役社長 荒木　三郎
武蔵商事株式会社 代表取締役 宇田川紀通
明治安田生命保険相互会社
取締役代表執行役社長 永島　英器
株式会社明和住販流通センター
代表取締役 塩見　紀昭
メッドサポートシステムズ株式会社
代表取締役社長 大徳　眞一
株式会社メディアグラフィックス
代表取締役社長 水野　憲一
株式会社メルコホールディングス
代表取締役社長 牧　寛之
森社会保険労務士事務所 所長 森　康之
株式会社ヤクルト本社 相談役名誉会長 堀　澄也
山崎製パン株式会社
ヤマトホールディングス株式会社
取締役 神田　晴夫

株式会社UACJ 代表取締役社長 石原　美幸
ユウキフーヅシステム株式会社
取締役相談役 田中　晃
横河電機株式会社
米持建設株式会社 代表取締役 米持　大介
株式会社リガク 取締役会長 志村　晶
株式会社リョーサン
代表取締役社長執行役員 稲葉　和彦
株式会社Rings 代表取締役 矢部　和広
株式会社リンレイ 代表取締役社長 鈴木　信也
株式会社LABCO 代表取締役 高津　昌広
株式会社LEOC 代表取締役会長兼社長 小野寺裕司
ローム株式会社
代表取締役社長 社長執行役員 松本　功

匿名5名

（2022年4月1日現在・50音順・敬称略）

パトロネージュご芳名

会田　雅美　東京都
浅野　純次　埼玉県
朝吹　英和　東京都
厚田　理郎　東京都
阿部　俊彰　神奈川県
荒井　昇　東京都
荒木　秀隆　東京都
荒蒔康一郎　東京都
有江　純子　神奈川県
有手　千麻　埼玉県
飯田　桂子　東京都
飯田　惠司　東京都
飯田　憲　東京都
家近　茂　東京都
家近　信子　東京都
五十嵐重雄　東京都
池浦　慧　東京都
池田　博　東京都
池野　隆光　東京都
池谷　光司　東京都
伊佐山建志　東京都
石井　榮　東京都
石澤　卓志　千葉県
石塚　邦雄　東京都
石橋　秀雄　神奈川県
石橋　雄三　神奈川県
伊藤　貴博　東京都
伊東　宏恭　神奈川県
伊藤　昌司　東京都
稲葉　治樹　茨城県
稲葉　好正　東京都
犬塚　静衛　東京都
井上　俊信　埼玉県
井上　直人　東京都
井上　浩良　東京都
岩瀬　順子　神奈川県
岩田　達明　静岡県
上野悦子・陽子　東京都
宇賀神裕子　神奈川県
臼井　潤　東京都
内村　恒彦　神奈川県
江口　和廣　東京都
江口　麗子　東京都
遠藤　滋　神奈川県
大石　直輝　山梨県
大熊美結紀　東京都
大倉　祐子　東京都
大島　剛　埼玉県

大竹　広明　神奈川県
太田　五郎　神奈川県
太田　達男　千葉県
大塚　宣夫　東京都
大藤　裕康　埼玉県
大森　京太　東京都
岡本　晋　東京都
岡田　尚子　埼玉県
岡田　雅史　神奈川県
奥林　群司　東京都
奥山　敦子　東京都
尾澤　弘久　神奈川県
尾上　洋子　東京都
小野寺けい子　岩手県
小野寺健一　岩手県
小幡　尚孝　東京都
小原　道生　東京都
折田　正樹　東京都
風間　沙織　神奈川県
賀澤　裕三　福島県
鹿島　英裕　東京都
片貝　英重　東京都
片柳　彰　東京都
片山　英二　東京都
桂　史子　東京都
加藤　壹康　静岡県
加藤　丈夫　東京都
加藤ひろみ　東京都
加藤　洋一　東京都
加藤　頼宣　東京都
金子　修　埼玉県
金子　肇　千葉県
上條　貞夫　東京都
上條　淑子　東京都
川合　孝一　千葉県
川瀬　範子　東京都
川畑　雅義　東京都
河田　義宏　東京都
菊池　和美　東京都
喜多垣久江　東京都
北村　篤嗣　埼玉県
北村　裕　神奈川県
木藤　正義　埼玉県
木村　惠司　神奈川県
草刈　隆郎　東京都
久野　哲男　千葉県
熊谷　朝子　東京都
倉谷　宏樹　東京都

栗原真知子　埼玉県
黒田　真一　東京都
畔柳　信雄　東京都
甲賀　一宏　埼玉県
好士﨑稔子　東京都
胡口　靖夫　東京都
児玉　敏宏　東京都
児玉　玲子　東京都
小林こずえ　東京都
小林　裕美　東京都
小林　容子　東京都
駒見　俊彦　東京都
五味　康昌　神奈川県
酒井　重人　東京都
酒井　和夫　神奈川県
酒井　伸　長野県
酒巻　英俊　東京都
佐藤　武男　東京都
佐藤　寛之　東京都
佐藤　正昭　東京都
座間　淑美　神奈川県
澤田　初恵　東京都
柴田　栄一　東京都
島田　精一　東京都
島田　敏生　神奈川県
島田　晴雄　東京都
清水　久子　東京都
清水　幸雄　千葉県
下河辺美知子　東京都
下條　英敏　神奈川県
下田　英一　東京都
生島　貴司　千葉県
新庄真帆子　大阪府
晋友会合唱団　東京都
菅　千太郎　東京都
杉山　秀子　東京都
杉山　浩明　東京都
鈴木　昌子　神奈川県
鈴木　庸夫　東京都
鈴木　祐二　東京都
住野　公一　東京都
関　兼英　東京都
妹尾　絲子　東京都
仙石　通泰　東京都
宗　神子　大分県
染野　郁郎　東京都
髙井　延幸　神奈川県
髙木　宏忠　東京都

高須　幸雄　東京都
髙田　信子　東京都
高橋　信喜　東京都
武岡　哲郎　東京都
竹下　道夫　東京都
竹中富知男　東京都
龍川　優　東京都
立山　裕子　熊本県
田中稀一郎　東京都
田中　宏征　兵庫県
田仲　博幸　東京都
田中　將介　神奈川県
田辺三基男　東京都
谷　聖美　神奈川県
田村　一　山梨県
田村　浩章　東京都
塚本　和久　東京都
塚本　美幸　東京都
辻　雅夫　東京都
蔦井　厚伸　東京都
津田　義久　東京都
常石　博之　東京都
角田　峻一　東京都
積田　孝一　東京都
d日本フィルの会
寺澤　佳代　東京都
東京フロイデ合唱団　東京都
時枝　直満　東京都
徳田　俊一　東京都
徳田　陽一　東京都
外山　雄三　東京都
中尾　誠利　神奈川県
ナガオカケンメイ　東京都
中島　奈穂　東京都
中島美知子　東京都
長瀬　雅則　東京都
中園　和博　東京都
仲田　喜義　東京都
中西　泉　東京都
永野　明宏　千葉県
永野　琢夫　東京都
中村　公一　東京都
中村　禎良　東京都
中本　逸郎　東京都
那須　雄治　東京都
棗　年紀・綾　東京都
新倉　啓介　東京都

西澤　豊　東京都
西村　敬子　京都府
西村　醇子　神奈川県
日本フィルハーモニー協会所沢支部　埼玉県
二村　英之　東京都
沼口　元彦　東京都
根本　直之　千葉県
箱崎　一彦　千葉県
橋倉　宏行　埼玉県
蓮見　正純　東京都
羽田　洋子　神奈川県
濱田　尚人　東京都
林　一郎　東京都
原　宏輔　東京都
原　俊　千葉県
針谷　博史　東京都
平井　邦子　神奈川県
平井　嘉朗　東京都
平田　邦夫　神奈川県
平田　正　神奈川県
平林　直哉　東京都
平松　恒治　東京都
広瀬　勝貞　大分県
広瀬　晴子　神奈川県
深沢　茂実　神奈川県
福井　英次　東京都
福田　昭夫　東京都
藤井　裕一　東京都
藤沢　薫　東京都
藤本由紀子　東京都
藤原　真也　東京都
古瀬　明弘　東京都
星　桂太朗　東京都
本田　博　熊本県
前田　耿史　神奈川県
前田圭一郎　千葉県
牧野　澄夫　東京都
正木　信汎　東京都
増田　文彦　神奈川県
松尾　東京都
松田　孝裕　埼玉県
松田　譲　東京都
松本　信義　東京都
三木恵美子　神奈川県
三木　繁光　東京都
峯島　茂之　東京都

宮川　輝男　千葉県
宮本　裕二　兵庫県
武藤　雄二　埼玉県
村上　純子　埼玉県
村上　洋美　東京都
村上　泰郎　東京都
持田　泰　東京都
元永　徹司　神奈川県
森　稔樹　神奈川県
森　宏之　神奈川県
森川　智之　神奈川県
八木　一郎　山梨県
矢口　敏和　千葉県
矢倉　俊紀　東京都
八代　元行　東京都
柳田　淑　神奈川県
谷野　剛　東京都
山上　典彦　東京都
山口　仁栄　東京都
山口　達之　長崎県
山口みどり　東京都
山越　章弘　長野県
山下　芳広　北海道
山田　敏之　神奈川県
山田　宏己　東京都
山村　隆　東京都
山村　美絵　東京都
山本　高稔　東京都
油井　直次　東京都
横川　直　東京都
吉川　美保　東京都
吉川　隆一　東京都
吉谷恵美子　神奈川県
吉村　真幸　埼玉県
吉村　匡則　東京都
渡辺　敦郎　東京都
渡辺　和子　東京都
渡邉規久雄　東京都
渡邉　直　東京都
渡邉　裕志　山口県
渡辺　康匡　東京都
F.H.
M.K.

匿名71名

（2022年3月11日現在
50音順・敬称略）

日本フィルハーモニー協会　維持会員ご芳名

青木　孝
青木　隆
赤星　弥生
荒井　隆志
有田　正治
石田　尚身
石田　英雄
伊藤　正明
岩崎　貞明
海野　尚久
大塚　宏二
岡登　弘志
小田倉　正
柏崎　和枝
加藤　明
金本　順子
神谷　薫
萱場　基
岸田　正博
北宮千恵子
木村　繁
倉田　茂
蔵貫　義朗
小島　鈴枝
斎木　典子
坂本　博志
相良　幸男
佐々木忠義
佐藤　雅道
佐藤　安雄
澤口佳乃子
下山　泰彦
菅原　章文
鈴木　重澄
鈴木　重行
鈴木　富美
住江　慶子
隅田　真
高田　昌樹
高津　正徳
武井　新
武田　幸子
多田　栄一
田中　諄
坪井　憲治
東保裕の介
富澤　裕
富田　節子
永井　福枝
長沢　光子
永田　康
中山　泰子
野田　孝
野中　和行
羽生　賢次
早川征一郎
広田　孝志
深沢　茂実
藤井　行雄
藤川　寿彦
藤村　文二
古川　武志
古瀬　明弘
本堂　毅
前島　景子
増田　文彦
松井　務
皆川　文弘
三好　敦生
民放労連関東地方連合会
柳瀬　友則
山縣　博
山下　芳広
渡辺　勝次
渡辺　政則

（2022年4月1日現在
五十音順・敬称略）

Member's TVU CHANNEL CLASSICAL MUSIC

クラシカルミュージック

https://members.tvuch.com

Member's TVU CHANNELは、クラシック音楽のコンサートの臨場感をいつでもどこでもお楽しみいただけるインターネット・サイトです。コンサートホールからのライブ配信、さらにコンサートが終わったあともアーカイブ映像としていつでも視聴可能です。日本フィルの配信は1,000円で3ヵ月間何度でもご視聴いただけます。

まずはID登録! メールアドレスとパスワードのみで簡単！

NEW! 10月23日東京定期&11月20日杉並公会堂シリーズ 視聴券ご購入で、もう一人見れるURLプレゼントキャンペーン実施中!

10月23日	東京定期演奏会	指揮:アレクサンドル・ラザレフ［桂冠指揮者兼芸術顧問］	アーカイブ配信中
10月31日	名曲コンサート	指揮:大井 剛史	クライスラー以外 アーカイブ配信中
11月6日	東京定期演奏会	指揮:角田 鋼亮	アーカイブ配信中
11月14日	コバケン・ワールド	指揮:小林 研一郎［桂冠名誉指揮者］	アーカイブ配信中
11月20日	杉並公会堂シリーズ	指揮:ピエタリ・インキネン［首席指揮者］	アーカイブ配信中
12月11日	東京定期演奏会	指揮:カーチュン・ウォン［首席客演指揮者］	アーカイブ配信中
12月19日	第九特別演奏会	指揮:角田 鋼亮	アーカイブ配信
12月23日	第九特別演奏会	指揮:小林 研一郎［桂冠名誉指揮者］	アーカイブ配信
1月16日	東京定期演奏会	指揮:阪 哲朗	アーカイブ配信
1月23日	名曲コンサート	指揮:下野 竜也	アーカイブ配信
3月4日	東京定期演奏会	指揮:広上 淳一［フレンド・オブ・JPO（芸術顧問）］	アーカイブ配信
3月11日	さいたま定期演奏会	指揮:鈴木 優人	アーカイブ配信
4月1日	東京定期演奏会	指揮:小林 研一郎［桂冠名誉指揮者］	ライブ＆ アーカイブ配信

NEXT CONCERTS
〉〉次回東京定期演奏会

第740回

サントリーホール

2022年5月27日(金)19:00開演　プレトーク 18:30〜
28日(土)14:00開演　プレトーク 13:30〜

両日ともマエストロによるプレトークあり!

カーチュン・ウォンとのマーラー第2弾!
今回は天使が誘う第4番!

指 揮:**カーチュン・ウォン**
[首席客演指揮者]

ピアノ:**務川 慧悟***

ソプラノ:**三宅 理恵****

伊福部昭:ピアノと管絃楽のための《リトミカ・オスティナータ》*

マーラー:交響曲第4番ト長調**

©Angie Kremer

指揮者が語る、次回東京定期演奏会!

カーチュン・ウォン編

時が経つのは早いものです。このメッセージを書いている今、私は日本フィルと2度の共演を果たしています。

初めて共演をしたプログラムはベートーヴェン、ショスタコーヴィチ、シュトラウス。そして昨年12月アルチュニアンとマーラーを演奏しました。2度の共演を経て、日本フィルのことをより深く知ることが出来ました。これからどのような曲を取り上げていくのか、事務局の皆さんと活発な議論をしています。楽しみにしていてください。

5月定期では、伊福部昭の「リトミカ・オスティナータ」、そしてマーラー交響曲第4番の2曲を演奏します。プログラミングを考える時間、それは私にとってとても刺激的な時間です。プログラミングとは、曲それぞれが持つ味わいと豊潤さで決まります、まるでレストランで思い出に残るディナーを食べるのと同じよう。5月定期は、演奏時間が1時間ほどあるマーラーを後半にお楽しみいただきます。そのため、前半のプログラムは、演奏時間だけでなくお客様のエネルギーを奪いすぎないよう、丹念に曲を選びました。お聴きいただく交響曲第4番は、マーラーの他の交響曲と比べると内省的な作品のひとつです。非常に繊細な音楽が散りばめられており、平和と調和の中にある天国を子供が思い描いたところで終わります。そこで私はどんな組み合わせがいいのだろうか?と思いを巡らせました。モーツァルトはマーラーと非常に相性がいいし、ブルックナーとも相性がいい。しかし、今回は伊福部のリトミカ・オスティナータを選びました。最近知る機会に恵まれ、心を打たれた曲です。演奏時間が絶妙で、マーラーとは対照的なリズムの曲です。邦人作品の演奏経験が豊富な日本フィルと一緒に演奏することで、曲の持つ更なる魅力をお届けできると思います。

マーラーの交響曲第4番は、私にとって特別な思い入れのある曲です。2014年のルツェルン・イースター音楽祭で、ハイティンク氏の指揮マスタークラスで初めて勉強しました。言葉はなく、彼の指揮棒の動きだけでオーケストラから紡ぎだされた音を、私は忘れることはできません。指揮者のなすべきことの大部分が、指揮者自身が一人音楽と向き合うことなのだと改めて実感させられた瞬間でした。丹念にスコアと向き合った集大成として、オーケストラと直接向き合うリハーサルがあるのです。

交響曲第4番は、マーラーが書いた他の交響曲に比べると小さな作品だと言われます。トロンボーンがなく、100分近い交響曲第3番に比べれば、かなり短い。オーケストラの編成は大きいが、多くの楽器は音量のためではなく、音色、色彩感のために使われ、ほとんど同時に音を奏でることが無い交響曲。どの交響曲よりも魅力的な鈴の音から始まる序奏が、聴く者を子供と無邪気さの世界へと誘います。

マーラーの交響曲は準備にとても時間がかかります。私は、演奏会の10カ月前には勉強を始めています。マーラーのスコアにはドイツ語で非常に多くの指示が書かれています。例えば、「nicht eilen」(急がない)、「nicht schleppen」(引きずらない)といったことです。これはアッチェレランドやリタルダンドとは違う意味合いなんです。スコアを読みながら疑問を見つけるたび、それはまるでマーラー自身と会話しているかのように、目の前にドイツ語が現れます。彼は作曲家としてだけでなく、指揮者としても音楽を考えていました。マーラーの曲を指揮する度、私は少し賢くなったような気がして、理知的になったように感じるのです。このメッセージを書いている今、私はニュルンベルクでマーラー交響曲第9番をリハーサルしています。9番のリハーサルを通じ、4番の交響曲が持つ生と死の概念について、深く考えるようになりました。マーラーが書いた緩徐楽章は、しばしば痛々しいほど美しい瞬間があります。ほとんど悲劇的ですが、短調ではなく長調で書かれているのです。

マーラーは1901年11月25日、ミュンヘンで交響曲第4番を初演しましたが、聴衆の反応は厳しいものでした。聴衆は第2番の様な、もしくは、それ以上の巨大な交響曲を期待していたからです。今日、交響曲第4番が私たちのコンサートレパートリーとして愛される作品の一つであることに、私は安堵と喜びを感じています。

助成:
文化庁文化芸術振興費補助金
(舞台芸術創造活動活性化事業)
独立行政法人 日本芸術文化振興会

1回券料金	S ¥8,000	A ¥6,500	B ¥6,000	C 完売	P ¥4,000	Ys (25歳以下) ¥1,500

※障害者手帳をお持ちの方は割引きがございますので、サービスセンターにお問い合わせください。

● 5月14日第377回横浜定期演奏会出演者及び曲目変更のお知らせ

出演を予定しておりました指揮の下野竜也は5月8日にアメリカ公演を予定しており、現在の水際対策では当公演のリハーサル日程が確保できない見込みとなりました。つきましては指揮を**日本フィル首席客演指揮者のカーチュン・ウォン**に変更いたします。なお曲目も一部変更させていただきます。

モーツァルト：歌劇《イドメネオ》序曲

▼

モーツァルト：歌劇《後宮からの誘拐》K.384序曲

● テレビ番組レギュラー出演のお知らせ

日本フィルがBSに。指揮者が語るミニ番組!『Welcomeクラシック』BS朝日 毎週水曜日22：54～23：00（第3週、第4週は再放送）。登場するのは首席指揮者ピエタリ・インキネン＆正指揮者山田和樹。ぜひご覧ください!

● 新入団員のお知らせ

2022年4月1日付でトランペット・セクションに大西敏幸が入団いたしました。今後の活躍にご期待ください。

● 好評発売中

第237回芸劇シリーズ

2022年4月17日（日）14：00開演
東京芸術劇場

指揮：ピエタリ・インキネン［首席指揮者］

ベートーヴェン：交響曲第6番《田園》
ベートーヴェン：交響曲第5番《運命》

第395回名曲コンサート

2022年5月22日（日）14：00開演
サントリーホール

指揮：西本 智実　ヴァイオリン：三浦 文彰

ブルッフ：ヴァイオリン協奏曲第1番
チャイコフスキー：交響曲第5番

● 発売日が変更になりました

2022年4月21日（木）発売

第396回名曲コンサート

2022年6月12日（日）14：00開演
サントリーホール

指揮：アレクサンドル・ラザレフ
［桂冠指揮者兼芸術顧問］
ピアノ：横山 幸雄

ラフマニノフ：パガニーニの主題による狂詩曲
ショスタコーヴィチ：交響曲第5番

❖ プレトーク「本日の聴きどころ」

東京定期演奏会の土曜日は、毎回これから始まるコンサートの聴きどころや楽曲解説、アーティストの素顔等を紹介いたします。今回は齋藤弘美さんの登場です。
土曜日13：30～

定期会員券ご寄付のお願い

お客様のご都合により、定期演奏会にご来場いただけなくなった時は、是非日本フィルにチケットをご寄付ください。有効に活用させていただきます。

3月の東京定期演奏会の定期会員券をお譲りいただきました。心より御礼申し上げます。
（50音順・敬称略）**匿名7名**

ご寄付の方法　ご寄付いただける会員券の公演日・座席数・座席番号を日本フィル・サービスセンターにお電話かFAX、メールにてご連絡の上、会員券をご郵送ください。主催会場でも受け付けます。

※公演 1 週間前のご寄付に関しては、会員券のご郵送は不要です。※会員券のご郵送代はお客様にてご負担いただきます様ご協力をお願い致します。※ご寄付いただいた定期会員のお客様には、ご寄付いただきました公演月のプログラム冊子を後日ご郵送致します。また、翌月または翌々月のプログラムにご芳名を掲載させていただきますので、掲載をご希望されないお客様はご連絡をお願い致します。

日本フィル・サービスセンター　〒166-0011　東京都杉並区梅里 1-6-1
TEL：03-5378-5911（平日11 時～17 時）　FAX：03-5378-6161（24時間）　E-mail：order-ticket@japanphil.or.jp

人、音楽、自然――日本フィルのテーマです。
JAPAN PHILHARMONIC ORCHESTRA

公益財団法人 日本フィルハーモニー交響楽団

楽団創立 1956 年 6 月

創立指揮者	渡邉 曉雄	首席指揮者	ピエタリ・インキネン
桂冠名誉指揮者	小林 研一郎	桂冠指揮者 兼 芸術顧問	アレクサンドル・ラザレフ
名誉指揮者	ルカーチ・エルヴィン	フレンド・オブ・JPO（芸術顧問）	広上 淳一
名誉指揮者	ジェームズ・ロッホラン	正指揮者	山田 和樹
客員首席指揮者	ネーメ・ヤルヴィ	首席客演指揮者	カーチュン・ウォン

ソロ・コンサートマスター：木野　雅之
ソロ・コンサートマスター：扇谷　泰朋
コンサートマスター：田野倉雅秋
アシスタント・コンサートマスター：千葉　清加
第1ヴァイオリン：太田　麻衣　九鬼　明子　齋藤　政和　榊　渚　佐藤駿一郎　田村　昭博　中谷　郁子　西村　優子　平井　幸子　本田　純一　町田　匡
第2ヴァイオリン：遠藤　直子　大貫　聖子　岡田　紗弓　加藤　祐一　神尾あずさ○　川口　貴　末廣　紗弓　竹歳　夏鈴　豊田　早織　山田　千秋
ヴィオラ：安達　真理☆　小俣　由佳　小中澤基道　児仁井かおり　高橋　智史　中川裕美子　中溝とも子　松澤　稚奈　デイヴィッド・メイソン◎
ソロ・チェロ：菊地　知也
チェロ：石崎　美雨　伊堂寺　聡　江原　望　大澤　哲弥　久保　公人　山田　智樹　横山　桂
コントラバス：菅原　光　鈴村　優介　髙山　智仁◎　成澤　美紀　宮坂　典幸○　山口　雅之
フルート：齋藤　光晴□　難波　薫　真鍋　恵子◎
オーボエ：佐竹　真登　杉原由希子◎　松岡　裕雅○
クラリネット：伊藤　寛隆◎　楠木　慶○　照沼　夢輝　堂面　宏起
ファゴット：大内　秀介　鈴木　一志◎　田吉佑久子○　中川日出鷹□
ホルン：宇田　紀夫　信末　碩才◎　原川翔太郎　丸山　勉☆　村中　美菜
ソロ・トランペット：オッタビアーノ・クリストーフォリ
トランペット：大西　敏幸□　中里　州宏　中務　朋子　星野　究
トロンボーン：伊藤　雄太　伊波　睦　岸良　開城○
バス・トロンボーン：中根　幹太
テューバ：柳生　和大
ティンパニ：エリック・パケラ◎
パーカッション：大河原　渉
ハープ：松井　久子

楽団長：中根　幹太
チーフステージマネージャー：阿部　紋子
チーフインスペクター：佐藤駿一郎
インスペクター：宇田　紀夫　鈴村　優介
ライブラリアン：鬼頭さやか　杉本　哲也

◎首席奏者　○副首席奏者　☆客演首席奏者　□試用期間

理事長（代表理事）：平井　俊邦
副理事長（代表理事）：五味　康昌
常務理事（代表理事）：後藤　朋俊
常務理事（代表理事）：中根　幹太
常務理事（代表理事）：福井　英次
理事：石井啓一郎／遠藤　滋　佐々木経世／田村　浩章　戸所　邦弘／福本ともみ
評議員会会長：加藤　丈夫
評議員：青井　浩／荒蒔康一郎　石塚　邦雄／石村　等　稲垣　尚／内川　清雄　大塚　宣夫／海堀　周造　梶浦　卓一／河北　博文　喜多　崇介／木村　惠司　久保田　隆／小林研一郎　島田　精一／髙橋　和夫　津田　義久／野間　省伸　葉田　順治／村上典吏子　山口多賀幸
監事：上條　貞夫／四戸　孝紀
名誉顧問：熊谷　直彦
名誉顧問：島田　晴雄
名誉顧問：田邊　稔
アドバイザリー・ボード：大島　剛／小野　敏夫　小網　忠明／後藤　茂　武田　隆男／田邊　稔　堀越　作治／溝口　文雄
コミュニケーション・ディレクター：マイケル・スペンサー
マネジメント・スタッフ：磯部　一史／江原　陽子　及川ひろか／小川紗智子　萩島　里帆／賀澤　美和　柏熊由紀子／小須田　萌　佐々木文雄／佐藤　孝雄　澤田　智夫／篠崎めぐみ　清水佑香子／杉山　綾子　杉山まどか／高橋　勇人　田中　正彦／槌谷　祐子　中村沙緒里／西田　大輔　長谷川珠子／馬場　桃子　藤田　千明／別府　一樹　益滿　行裕　山岸　淳子　吉岡　浩子

団友：
青柳　哲夫／青山　均／赤堀　泰江　浅井　俊雄／淺見　浩司／新井　豊治　石井啓一郎／伊藤　恒男／江藤　瓔子　遠藤　功／遠藤　剛史／大石　修　大川内　弘／大味　修／筧　美知子　金本　順子／蒲谷　隆行／川口　和宏　菊田　秋一／吉川　利幸／木村　正伸　小林　俊夫／小山　清／斎藤　千種　佐々木裕司／佐藤　玲子／髙木　裕子　髙木　雄司／高木　洋／高倉　理実　田沢　烈／立川　和男／堂阪　俊子　富樫　尚代／豊田　尚生／中川　二朗　永田　健一／中務　幸彦／奈切　敏郎　橋本　洋／畑井紀代子／平賀　法子　福島　喜裕／松本　克巳／松本　伸二　三谷　昭平／三本　克郎／宮武　良平　三好　明子／森　茂／山下　進三　山科　淑子／山本　辰夫／渡辺　哲雄

（2022年4月1日現在）

チケットお申込・お問い合せ

[日本フィル・サービスセンター]
TEL.03-5378-5911(通常：平日10時～17時／現在：平日11時～17時) ※状況によっては営業時間が変更になる場合がございます。予めご了承ください。
FAX.03-5378-6161(24時間)
E-MAIL：order-ticket@japanphil.or.jp

公益財団法人 日本フィルハーモニー交響楽団
〒166-0011 東京都杉並区梅里1-6-1　TEL.03-5378-6311
japanphil.or.jp

公式Twitter
@Japanphil

公式アカウント

BS朝日 5
「Welcome クラシック」インキネン & ヤマカズが語るミニ番組
毎週水曜日 22:54～23:00 放送中!!